

Y-PAC journal Vol.7 Stand Alone Complex

Text by naoto ishizuka

最近Y-PACの活動も段々と活発になり、様々な外の団体と交流することも増えてきた。特に今年のArchiTVには多くの建築学生団体が参加しており、その活動の様子を話しに聞く機会も多い。その中で、Y-PACは集まりとして相対的に一体どういう位置にいるのか、あるいはどういう位置に立ち得るかを自分なりに何度か考えてきた。それを少し文章にまとめたいと思う。

そもそも、Y-PACが結成されたのは学科のなかでカメラを持っている人口が増えてきて、写真のテクニックの向上とか情報交換の場として何か集まりがもてないかというのがきっかけだった。当初は本当に写真のみを目的とした集まりであった。しばらくは、それぞれの予定も上手くかみ合わず、なかなかまとまった人数で集まれなかった。しかしながら、集まらないなりにも活動を細々と続けてきたのである。少しこの集まりに変化があったのは「ジャーナル」を発行しだしてからである。この「ジャーナル」とはvol.0「First of all…」に小泉君も書いているが、お互いの交わす議論の量の少なさという危機感から生まれたものである。内容は建築や写真と全く関係なくても構わない。とにかく、それぞれが興味あることについて文章を書くという物である。そして、その文章が何か議論の火種になればという物だ。この頃から、あれ、なんかおかしいなと、うすうす思っていたのであるが段々活動の中身が色々になってくる。

しばらくは写真や建築に絞らない活動をする事に個人的に疑問があった。しかし、ここ最近でかなり考え方が変わってきた。Y-PACは「口実」なのである。なにか面白いことをしたい。中には、一人でできないこともある。そういう企画をY-PACに持ち込んでしまう。賛同してくれる人がいれば進めてしまう。そういう何かをするための口実に使ってしまうのかもしれないと思うのだ。それぞれのメンバーはそれぞれの思惑を持って、野望を持ってY-PACを活用する。だから、Y-PACは団体としての意思表示をしないし、統一見解も持たない。「我々」とは称さないでいつまでも「私」の集まりでしかないと思うのである。そういう意味でY-PACはチームでも団体でも組織でもなく、その名の通りコミュニティーなのだと思う。

「Stand Alone Complex」という言葉がある。この言葉はアニメ「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX」に登場する。それぞれ異なった背景を持つ個々が、一定の階層的な組織構造を共有していないにもかかわらず、同一目的の行動を同時多発的にとる、だが手段は多様、という状況を表した言葉だ。ばっちりメンバーを決めて同じ意志を共有している団体、方向を絞った活動をしている団体、組織化されて運営されている団体、色々参考にはなるし学ぶべきことは多い。しかし私はY-PACはStand Alone Complexな集まりでいいのではないかと思うのである。上も下もなく、様々な考えをもって、でもたまに同じ目的を一瞬共有して、でもばらばらの関わり方で関わるのである。それぞれが興味あることにちょくちょく頭や手や足を突っ込みながら、複眼的・多角的に今後も活動していけばよいと思うのである。

しかしこの考えは結局、私の思惑・野望でしかないので、メンバーのみならず色々な人の考えも正直聞いてみないとなあと思っているところである。

October 1 2008